

三菱長崎造船所に勤務していた丸山 久さん(伊方)

人間が、人間らしくなくなる
生き地獄のような光景でした。

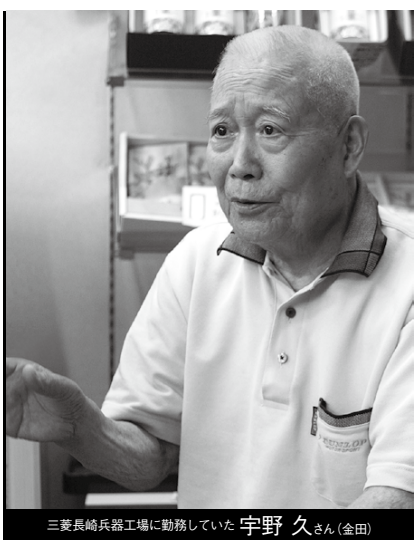
としか分かりません。夜、何もないので防空壕で寝ようと中をのぞいたら、そこでもたくさんの人が重なるようにして亡くなっていました。路上には目が飛び出した死体や内臓が出ている死体もあり、地獄のようなありさまでした。
その後、近くで死んでいる人たちを広場へ運ぶ作業をしたのですが、黒こげの死体も少なくなく、みんな焼けていて男女の区別もつきませんでした。最初は手で持っていたのですが、死体の皮がくっ

ついてしまうので、上からの命令で、針金で手足をしばって運びました。これらの死体は、油をかけて焼いていました。まるで人間の死体ではないかのようでした。
原爆は人間の尊厳を踏みつける非人道的な大量破壊兵器です。わたしは見たままのことしか話せんが、これは何の罪もない市民が一瞬にして悲惨な目に遭った事実です。ゼビ子どもたちに原爆の恐ろしさを、そして平和の尊厳を知り、考えて欲しいと思います。

徴 用令で17歳の時に赤池を出て、2年ほど三菱長崎兵器工場(爆心地から1.5km)で魚雷を作る仕事をしていました。当時19歳でした。工場でハンマーをおろすのと同時にピカッと、ものすごい雷が目の前で光った感じで、わたしは思わず床に伏せました。何秒かして爆風で目の前が真っ白になって、息ができませんでした。厚さ30センチ以上もあるコンクリートの下敷きになり、肩や頭を打って気絶していました。その分厚いコンクリートのおかげで九死に一生を得ました。光がさす方向へはって脱出し、山のふもと側から寮へと帰りました。その時、高台から見下ろした周辺は電信柱が2本だけで、ほかには何もありませんでした。最初は何が起きたのか分からなかったのですが、後から3日前に広島に落ちた新型爆弾だと気づきました。
翌日、駅の方へ行きましたが「水をください」と、さまよい歩く子どもや大人が乾きを訴えて、ほんの人の人がのどを潤してました。全身火傷で首の皮がズルッとむけている人もいて、死ぬ直前の断末魔のような声が本当にかわいそうでした。川にもたくさん死体が浮いていて、流木につかまっただま重なって死んでいました。
翌々日に工場の様子を見に行き

ましたが、人間の腐敗臭で長くはいられません。辺りは、馬などあらゆる生き物がひっくり返っていて、人を山のように積んで油をかけて燃やしていました。
あの光景は、忘れられないものなと忘れたいです。しかし、思い出すまいと思っても思い出してしまいます。8月9日が来たらなんだく具合が悪いです。時計を見てしまつと「今ごろはひどい目にあっているな」って考えました。若いときは夢でうなされることも

あんな残酷なもの
もう誰も見てはならんのです。



三菱長崎兵器工場に勤務していた宇野 久さん(金田)

しばしばでした。原爆がどんなにむごいかわからないのは、経験した人しか分からないでしょう。戦争に負けたのは仕方ないこと。しかし、どうせやるんなら、なんでもっと早くやめられなかったのかと思ってしまう。もうあんな残酷なもの見たくないし、これからは、決してだれも見えてはならないです。戦争は絶対にしちやならん。心底こりこりです。核兵器も含めて、戦争自体をなくすこと。それだけがわたしの願いです。

一変した。一瞬だった。
あの夏と真実を語り継ぐ

長崎

たった一個の爆弾、ほんの一瞬の出来事でした。それは忘れない記憶であり、次代に伝えなければならぬ真実でもあります。
今回、町内のお二人に長崎での貴重な体験を語っていただきました。

そ の日は、雲一つない空で、ジリジリと日が照っていました。朝から暑い日でした。

8月9日、わたしは17歳。徴用されて三菱長崎造船所に勤務してました。ちょうどその時は、造船所の裏山にあるトンネル内の格納庫(爆心地から3.5km)地点で機械のシャフトを取り付ける作業をしていました。突然、外のほうを昼間に火花を打ち上げたようにピカッと光り、少し間をおいてゴォーッとという地響きとともにものすごい爆風が2度きました。かぶっていた帽子が飛び、しばらく耳が聞こえなくなりましたが、幸いケガ一つありませんでした。

翌日、船乗り場に行くくと、数え切れないくらい死体があおむけやうつぶせになり、岸壁に連なっていました。熱さとのどの渇きで川や海に飛び込んだのでしょうか。時がたつにつれ、死体はガスがたまってふくらんでいきました。
それから会社の人捜しのために、駅方面へ歩いていくと、服がポロポロの人、裸同然でも恥じらう気力すら無い人、傷だらけでなんとか歩いてる人、「助けて」と小さくつぶやきながら水を求める人など、目を覆いたくなるような光景を目にしました。あたりは爆風で飛ばされて何もなく、ここに家や建物があったんだなというこ



【長崎の原爆】

昭和20年8月6日の広島(死者推定14万人)に続き、8月9日の午前11時2分、長崎市に米軍2発目の原爆が投下されました。すさまじい光と熱線が襲い、衝撃波と爆風が瞬時に街を破壊。推定7万4千人もの尊い命を奪いました。